

都市計画データ標準製品仕様書 補足資料

1. 都市計画データをCityGML形式で整備する場合の、i-UR改訂への対応について
2. 都市計画データを測地成果2024で整備する場合の対応について

都市計画データをCityGML形式で整備する場合の、i-UR改訂への対応について

都市計画データ標準製品仕様書が引用するi-URの版が、3.1から3.2に改訂されました。

- この改訂は、3D都市モデル標準製品仕様書において、「点群モデル」が追加されたことによる改訂です。
- 都市計画データ標準製品仕様書が引用する範囲には、改訂の影響がありません。

そこで、今後、都市計画データ標準製品仕様書に準拠し、都市計画データをCityGML形式で整備する場合は、以下のように対応してください。

□都市計画データを、3D都市モデルと一体的に整備する場合：

- i-URは、**3.2版（3D都市モデルと同じ版）**を採用してください。このとき、別途3.1版の都市計画データを作成する必要はありません。
⇒次スライドに、引用するi-URを3.1から3.2に変更する場合の対応事項を示します。

□都市計画データのみを整備する場合（3D都市モデルは作成しない場合）：

- i-URは、**3.1版（現在の都市計画データ標準製品仕様書が採用する版）**を採用することを基本とします。この場合、特に改訂への対応はありません。
- ただし、3.2版（3D都市モデルと同じ版）を採用いただいても構いません。この場合、上述と同様、i-URを3.1から3.2に変更する場合の対応事項に従ってください。

なお、段階的な運用方法に基づき、都市計画データをCityGML形式で整備しない場合は、i-UR改訂への対応はありません。

i-UR改訂への対応事項（i-UR 3.2の採用方法）

都市計画データを、3D都市モデルと一体的に整備する場合等により、i-UR 3.2に従ってCityGML形式で記述する場合には、以下の3点を実施してください。

1. 拡張製品仕様書における、以下の箇所で引用している版の記載の更新（i-UR 3.1をi-UR 3.2に変更する）

- 1.4 引用規格等
- 1.6 略語
- 7.1 配布書式情報
- 7.2 配布媒体情報
- 8 メタデータ

2. 成果品と同封する、XML Schemaの更新と、XML Schemaを格納するフォルダ名の更新

XML Schemaの入手先（URL変更箇所赤字）	更新するフォルダ名（更新箇所赤字）
https://www.geospatial.jp/iur/schemas/uro/3.2/urbanObject.xsd	/iur/uro/3.2/urbanObject.xsd
https://www.geospatial.jp/iur/schemas/urf/3.2/urbanFunction.xsd	/iur/urf/3.2/urbanFunction.xsd
https://www.geospatial.jp/iur/schemas/urg/3.2/statisticalGrid.xsd	/iur/urf/3.2/statisticalGrid.xsd

3. 成果品となるCityGML形式ファイルのヘッダーの書き換え（いずれも、3.1を3.2にする。次ページに実例掲載）

- schemaLocationの記載に含まれるi-URの参照先URLを変更
- 接頭辞の記載の記載に含まれるi-URの参照先URLを変更

CityGML形式ファイルのヘッダーの書き換え例

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<core:CityModel xmlns:brid="http://www.opengis.net/citygml/bridge/2.0" xmlns:tran="http://www.opengis.net/citygml/transportation/2.0"
xmlns:frn="http://www.opengis.net/citygml/cityfurniture/2.0" xmlns:wtr="http://www.opengis.net/citygml/waterbody/2.0"
xmlns:sch="http://www.ascc.net/xml/schematron" xmlns:veg="http://www.opengis.net/citygml/vegetation/2.0"
xmlns:tun="http://www.opengis.net/citygml/tunnel/2.0" xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink"
xmlns:tex="http://www.opengis.net/citygml/texturedsurface/2.0" xmlns:gml="http://www.opengis.net/gml"
xmlns:gen="http://www.opengis.net/citygml/generics/2.0" xmlns:dem="http://www.opengis.net/citygml/relief/2.0"
xmlns:xAL="urn:oasis:names:tc:ciq:xsd:schema:xAL:2.0" xmlns:uro="https://www.geospatial.jp/iur/uro/3.2"
xmlns:landuse="http://www.opengis.net/citygml/landuse/2.0" xmlns:blde="http://www.opengis.net/citygml/building/2.0"
xmlns:smil20="http://www.w3.org/2001/SMIL20/" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xmlns:smil20lang="http://www.w3.org/2001/SMIL20/Language" xmlns:pbase="http://www.opengis.net/citygml/profiles/base/2.0"
xmlns:core="http://www.opengis.net/citygml/2.0" xmlns:grp="http://www.opengis.net/citygml/cityobjectgroup/2.0"
xsi:schemaLocation="https://www.geospatial.jp/iur/uro/3.2 ../../schemas/iur/uro/3.2/urbanObject.xsd http://www.opengis.net/citygml/2.0
http://schemas.opengis.net/citygml/2.0/cityGMLBase.xsd http://www.opengis.net/citygml/landuse/2.0
http://schemas.opengis.net/citygml/landuse/2.0/landUse.xsd http://www.opengis.net/citygml/building/2.0
http://schemas.opengis.net/citygml/building/2.0/building.xsd http://www.opengis.net/citygml/transportation/2.0
http://schemas.opengis.net/citygml/transportation/2.0/transportation.xsd http://www.opengis.net/citygml/generics/2.0
http://schemas.opengis.net/citygml/generics/2.0/generics.xsd http://www.opengis.net/citygml/cityobjectgroup/2.0
http://schemas.opengis.net/citygml/cityobjectgroup/2.0/cityObjectGroup.xsd http://www.opengis.net/gml
http://schemas.opengis.net/gml/3.1.1/base/gml.xsd">
  <gml:boundedBy>
    <gml:Envelope srsName="http://www.opengis.net/def/crs/EPSSG/0/6697" srsDimension="3">
      <gml:lowerCorner>35.991572169647526 138.13732020013597 765.17</gml:lowerCorner>

```

3.1を3.2にする
(下線部分)

3.1を3.2にする
(下線部分)

この事例は、uroの更新例を示しています。
urf及びurgについても同様に、版を変更してください。

都市計画データを測地成果2024で整備する場合の対応について

都市計画データ標準製品仕様書では、測地成果2011（日本測地系2011）をデータに適用する空間参照系として指定しています。

国土地理院では、標高の仕組みを、衛星測位を基盤とする「測地成果2024」に改定しました。これに伴い、公共測量の「作業規程の準則」の改正も行われました。今後、都市計画基本図の整備・更新では、測地成果2024が採用されるケースがほとんどだと考えられます。一方、測地成果2024は標高への影響しかいないため、公共測量が適用されない都市計画基礎調査では、引き続き測地成果2011が採用されると考えられます。

そこで、今後、都市計画データ標準製品仕様書に準拠し、都市計画データを整備する場合は、以下のように対応してください。

□都市計画データを、測地成果2024（JGD 2024）に基づき整備する場合：

- 得られた都市計画データが、測地成果2024に基づいたものであることを明示するため、以下の2点を実施してください（次ページに詳解）。
 1. 「**拡張製品仕様書 5.1 空間参照系**」への、適用する空間参照系（JGD2024）の記載。
 2. **成果物に含めるJMP2.0形式のメタデータへの、適用する空間参照系（JGD2024）の記載。**
- CityGML形式で整備する場合、かつ、成果物に、測地成果2024のデータと測地成果2011のデータが混在する場合は、以下を実施してください。
 1. ファイル名称のオプションとして、測地成果2024のファイルには、JGD2024、測地成果2011のファイルには、JGD2011を付ける。

（ファイルの命名規則に従い、 [図郭番号]_[地物型]_ JGD2024や[図郭番号]_[地物型]_ JGD2011とする。）

- ただし、データ利用時のトラブルを避けるため、**同じ地物型（例：建築物）に対しては、同じ空間参照系を適用することを推奨**します。

□都市計画データを、測地成果2011（JGD2011）に基づき整備する場合：

- 特に対応の必要はありません。

測地成果2024に基づく成果であることの明示方法

1. 「拡張製品仕様書 5.1 空間参照系」への、適用する空間参照系（JGD2024）の記載。

5 参照系

5.1 空間参照系

データ製品には、以下の空間参照系を適用する。

空間参照系の名称
日本測地系 2011 における平面直角座標系

なお、等高線等に付与する高さを示す属性は、東京湾平均海面を基準とする標高に基づく高さとする。

空間参照系の名称を、「日本測地系2024における平面直角座標系」に書き換える。

2. 成果物に含めるJMP2.0形式のメタデータへの、適用する空間参照系（JGD2024）の記載。

8.1 メタデータの形式

メタデータの形式は、JMP2.0とする。

なお、都市計画基礎調査に使用する原典資料は、別途リスト化する。この原典資料リストの仕様は、8.5に示す。

8.2 メタデータの記載項目

メタデータの記載項目を表 8-1 に示す。

表 8-1 メタデータに含めるべき項目

メタデータ項目	記述する内容	記述例
メタデータ>ファイル識別子	upd_[市区町村コード]_[整備年度]_[地物型]_[オプション]とする。	upd_27100_2022
<< 途中省略 >>		
メタデータ>規格の版	メタデータの版。	2.0 (固定値)
参照系情報	データ集合に適用される座標参照系の識別子。製品仕様書で指定された空間参照系の識別子を記述する。識別子は、JMP2.0を参照する。	
識別情報>題名	都市計画データ_[市区町村コード]_[整備年度]	都市計画データ 27100 2020

測地成果2024で整備した場合、空間参照系の識別子として JGD2024 / n (X, Y) を入れる。
Nには、平面直角座標系の1から19の数字が入る。
例えば、第6系の場合は、JGD2024 / 6 (X, Y)となる。